

新軍備計画論

井上成美

総論

一、海軍軍備計画ハ根本的ニ改定ヲ要ス

軍令部説明軍備計画ヲ見ルニ、其ノ考ヘ方ハ

戦艦、巡洋艦、駆逐艦、其ノ他ノ各艦種及航

空兵力ニ就キ、対米比率ノ或ル一定水準ノ保

持ヲ目的ト為シ居ルヤニ見エ、口ニハ質ヲ以

テ量ノ不足ヲ補フト云フモ、其ノ行キ方ハ単

二個艦能力ノ優ヲ求メ、之ニ依リ勝テ相ニ考

ヘ居ル迄ナリ。而力モ其ノ口ニ云フ質ノ考ヘ

方モ、其ノ内容ヲ突キ詰ムルトキハ、結局、

大砲口径ノ大、登載数ノ大、等ヲ視ハントス

ルモノニシテ、矢張量の競争ニ過ギズ、海軍

々備全体トシテノ質的ノ考ヘ方、甚少キガ如

ク感ゼラル。殊ニ潜水艦勢力ノ対米比率迄モ

気ニシ居ル如キ物ノ考ヘ方ヲ見ルニ至ツテハ

何処ニ自主的ナル軍備計画アリヤヲ疑ハザル

ヲ得ズ。素々潜水艦ハ、決シテ相手國ノ潜水艦ト相戦フヲ本質トスル艦タネニ非ズ。想定敵國ト潜水艦保有量ノ比較ハ、軍備條約ニ於ケル兩國ノ建艦ノ權利ヲ比較シタル軍備條約時代ノ、単ナル政治的ノ思想ニシテ、其ノ間少シモ兵術的ノ表現シ居ラザル素人ノ考ヘ方ナリ。

軍令部当局ハ、各艦種ニ就キ、何レモ此ノ思想ニテ軍備計画ヲ立案シ居ルモノノ如ク、成ル程、此ノ思想ハ軍備計画上、一応一ツノ考ヘ方ニ相違ナク、財力豊富ニシテ、想定敵國ヨリモ優勢海軍ヲ保持シ得ル英・米ノ如キ國情ニ於テ一応首肯シ得ルモ、ソノ思想ハ、海軍々備ノ相對性ヲ極メテ狭ク考ヘ、各艦種毎ニ優勢ヲ保持スレバ海防ハ安全ナリ、トノ考ニ出発ス。

帝國ハ其ノ國力ニ於テ、英・米ト飽ク迄建造競争ヲ行ハントスレバ、遂ニ彼ニ屈服スルノ外ナキハ、乍残念明瞭ナル事実ナレバ致方ナシ。曩ニ軍縮條約ヲ破棄セル際ノ帝國ノ決心

ハ、彼卜量的ノ建艦競争ヲ行ハントセシニ非ズ。軍備ノ自主性ヲ求メントシタルニ外ナラズ。即チ、帝國海軍ハ軍備條約破棄ヲ契機トシテ軍備充實ノ自由ヲ獲得シ、自主的ニ帝國々情、地理的情勢ニ適応セル、特徴アル軍備ヲ充實シ、ソノ特徴ニ因ツテ帝國國防ノ安固ヲ求メントセシ次第ナリ。

然ルニ爾來參年ヲ經過セル今日、軍令部当局ノ立案セル將來軍備計畫ヲ見ルニ、其ノ間何等新味ナク、何等ノ特徴ナク、旧態依然タルモノアリテ、最近ノ米國ノ大建艦計畫ノ報ニ周章、只只量的ニ彼ニ追及セムコトヲ考へ居ルニ過ギズ。

斯クシテ帝國ハ、對米比率ニ於テ軍備條約時代、條約ノ存在・恩惠ニ依リテ保障（結果ヨリ見レバ此ノ通ナリ）セラレタル約七割ノ軍備ガ、無條約時代ニ至ツテ漸次却ツテ其ノ比率ガ低下セントシ、其比率ノ低下ヲ防ガントシテ四苦八苦ナリト云フガ現状ナルニ非ズヤ。其ノ間、何レニ軍備ノ自主性アリ、何レニ海

軍々備ノ特徴アリヤ。軍縮條約破棄ノ際、海軍ガ多大ノ希望ヲ懸ケ、國民ニ迄声明セシ自主的軍備ハ、何処力ニ置キ忘レラレタルノ觀アリ。殊ニ航空機、潜水艦ノ異常ノ発達ハ、戦争ノ方式ニ大ナル変革ヲ来シツツアリ。又一方、支那問題、東亞共栄圈ノ問題等、帝國ノ地位、東亞ノ情勢ニ多大ナル变化アル今日吾人ハ徒ラニ米ニ対スル量的競争ノミヲ目途トスルコトヲ止メ、一旦日米開戦ノ暁、日米戦争ハ如何ナル形態ヲ採ルヤ、吾人如何ナル作戦を実施スベキヤ、帝國ヲ不敗ノ地位ニ置キ方策如何等ヲ、根本的ニ考察シ、独自ノ見解ニ立チ、新ナル着想ノ下ニ、新軍備計画ヲ樹立スルノ要、切ナリト謂フベシ。

吾人ハ何モ、帝國ハ英・米ニ比シ劣勢ニ甘ンズルヲ要スルガ故ニ、軍備ノ自主性ヲ論ジ、特徴軍備ヲ主張スルモノニ非ズ。例令帝國ガ英・米ニ対シ、量的ニ優位ヲ保チ得ルトスルモ、軍備ノ自主性ハ常ニ緊要ニシテ、彼ニ対シ充分ナル優勢ヲ保持シ得ルト仮定スルモ、

今後艦隊決戦本位ノ建艦ハ、之ヲ止メ、新形態ノ軍備ニ邁進スルノ要アルコト勿論ナリ。

二、日米戦争ノ形態

帝國ガ米國ト交戦スル場合、ソノ戦争ノ形態ヲ考察スルニ、帝國ハ米國ニ敗レザル事ハ軍備ノ形態次第ニ依リ可能ニシテ、又是非共然アルベキモ、又一方、日本ガ米國ヲ破リ、彼ヲ屈服スルコトハ不可能ナリ。其理由ハ極メテ明白簡單ニシテ、

(一) 米國ノ本土ハ極メテ廣大ナルヲ以テ、其國土全土ヲ攻略スルコトハ不可能ナリ。

(二) 米國ノ首都攻略モ(一)ト同一理由ニヨリ不可能ナリ。

(三) 日本ハ米ノ作戦軍ヲ殲滅スルコトハ不可能ナリ。

(四) 米國ハ物資豊富ニシテ、其ノ國外依存ノ程度少キヲ以テ、封鎖ニヨル苦痛僅少ニシテ、彼ノ死命ヲ制スルニ足ラズ。

(五) 米國ノ海岸線ノ長大、帝國ヨリノ遠大  
 距離ニ在ル事、及び太平・大西洋ニ海岸線ヲ  
 有スル為、日本軍ニヨル海上封鎖ハ不可能ニ  
 近シ。  
 (六) 北米大陸ノ中央ヲ占メ、陸境ヲ有スル  
 地理的關係ヨリ、米本國ノ完全封鎖ハ不可能  
 ナリ。  
 米國ノ対日作戰ハ、日本ガ米本國ヨリ遠大距  
 離ニ占位シ在ルノ一事アル為、米ノ吾ニ対ス  
 ル作戰ガ、吾ノ米本國ニ対スル作戰ノ困難ナ  
 ルト同様ノ共通点アルモ、他ノ情況ハ、日ノ  
 米ニ対スルト大イニ趣ヲ異ニシ、  
 (一) 日本國全土ノ占領モ可能ナリ。  
 (二) 首都ノ占領モ可能。  
 (三) 作戰軍ノ殲滅モ可能ナリ。又、  
 (四) 海上封鎖ニヨル海上交通制圧ニヨル物  
 資窮乏ニ導キ得ル可能性大。  
 (五) 海上封鎖モ技術的ニ不可能ニ非ズ。  
 右ニ述ブル如ク、日本ハ対米戦争ノ場合、米  
 二対シ、有ラユル弱点ヲ有スルヲ以テ、吾ニ

於テ、万一此ノ弱点ヲ守ルノ方策ニ欠クル処アルニ於イテハ、彼、吾ノ弱点ヲ突クノ公算多ク、帝國々防ノ安泰ヲ期シ難シ。旧時ニ於テハ、戦術的ニ対米決戦ニ敗レザルノ兵力ヲ保有スル事ニ依リ、前述ノ弱点ノ手当ハ完全ニ行ハレ、帝國ノ國防ノ安泰ヲ期シ得タルモ潜水艦及航空機ノ発達ハ海防上ノ大変革ヲ来シ、旧時代ノ海戦ノ思想ノミ以テハ、何事モ之ヲ律スルヲ得ザルコトニ注意ノ要アリ。今試ニ、対米戦争ノ場合ノ戦争形態ヲ論述スル

ニ、概、以下列記ノ通ナリト考ヘラル。勿論以下ハ、純正ナル兵術思想ヲ基礎トセル経過ノ予察ニ過ギザルヲ以テ、彼レ米ニシテ、突飛ナル作戦ノ拳ニ出ズル場合アラバ、吾人ノ予想ト相違スルコトアルベキハ論ヲ俟タズ。

又、戦争ハ相對的ナルノミナラズ、情況ハ千變万化、所謂定形ナシ。故ニ嚴格ニ細部ニ亘リ、的確ナル予想ヲ行フ事ハ至難ナルベキモ全体的ナル荒筋ハ大体ニ於テ当ルモノト見ルベシ。

(一) 米國ハ多数ノ潜水艦ヲ日本近海及日本ノ生命交通線ニ活動セシメ、航空機ト協力シ根強ク日本ノ海上交通破壊戦ヲ行ヒ、日本ノ物資封鎖ノ拳ニ出ズルベシ。

日本ハ國家生存及作戰遂行上ノ必要ニヨリ、米ノ潜水艦及航空機ノ攻撃ニ對抗シ、海上交通線ノ確保ヲ要スベシ。此ノ意味ニ於イテ、海軍ノ海上交通確保戦ハ、日米作戰中重要ナル一作戰ナリ。

米の潜水艦及航空機ハ、菲島ヲ初メ、西太平洋ノ米國ノ領土ヲ基地トシテ活動スベク、吾ハ之ガ抜本塞源的方策トシテモ、此等在東洋米國領土ノ攻略ヲ必要トシ、且、之等領土ヲ我ニ占有スルトキハ、所在航空基地ヲ逆ニ我ニ利用シ得ベク、之ニヨリ我ガ航空機ノ活動ヲ更ニ積極化シ、且、前進セシメ得ルノ見地ヨリ、在東洋米領土ノ攻略ハ、殆ンド絶対ニ近キ必要性ヲ帯ビ来ルヲ以テ、日本ハ此等領土攻略戦ヲ実施スベシ。

尚、米ガ対日戦ニ於テ、英其ノ他ノ國ノ領土



ヲ作戦ニ利用スル場合ニ於テハ、此等三國領土ニ対スル日本ノ攻略作戦ハ是非共必要トシソノ攻略戦ハ、米ガ作戦ニ利用スル程度ニモヨル事ナルモ、原則トシテハ、帝國領土ニ近キモノヨリ順次ニ足場ヲ固メツツ、歩歩前進的ニ実施セラルベキモノトス。

(二) 日本ハ、海上ヨリスル敵ノ攻撃ニ対スル直接帝國領土ノ防衛ノ為ニハ、多数ノ潜水艦及航空機ヲ配ス。彼、又航空機ヲ以テ我ニ対シ、基地攻略ノ手段ニ出ズルベシ。此ノ作戦ハ、菲島・台湾・パラオ間、及南洋方面、季節ニヨリ北海方面ニ於テ行ハルベシ。米ハ時ニ好機ヲ見テ、日本本土ノ空襲ヲ企図スベシ。

コノ意味ニ於テ、吾ハ直接国土防衛ノ方策上此等米國ノ基地攻略ヲ実施スルノ必要アリ。此ノ要求ハ、第一項ニ論ジタル通商線・交通線確保ノ為ノ米領土攻略ノ要求ト相一致ス。

此ノ米領土攻略戦ニ於テ、日本ノ作戦有利ニ展開シ、在東洋米領土全部ヲ攻略シ得ルニ於

イテハ、米國航空機ノ西太平洋ニ於ケル活動  
ハ大ナル制限ヲ受ケ、爾後ノ作戦ハ概ネ吾ニ  
有利ニ推移スルヲ得ベク、航空機ト潜水艦ノ  
活動ニ依リ、米ノ主力艦ノ如キハ、米艦隊長  
官ガ非常ニ無智無謀ナラザル限り、生起ノ公  
算ナシ。  
然レドモ、米モ亦、吾ガ前進基地ヨリ漸次ニ  
作戦正面ヲ狭窄スルガ如ク帝國ノ領土攻略戦  
ヲ実施スベキヲ以テ、台湾方面、南洋方面、  
及北海方面ノ基地奪取戦ハ、相互的ノ努力ト  
ナル事、勿論ナリ。  
側手、日米相互ノ争フ此ノ領土攻略戦ハ、日  
米戦争ノ主作戦ニシテ、此ノ成敗ハ帝國国運  
ノ分岐スル所ナリト言フモ過言ニ非ズ、其ノ  
重要サハ旧時ノ主力艦隊ノ決戦ニ匹敵ス。  
(三)日本ガ菲島ヲ初メ、西太平洋ノ米領土  
ヲ全部攻略スルコトニ依リ、戦ノ大勢ハ決セ  
ラレ、帝國ハ西太平洋ノ事実上ノ王者タリ得  
ベシ。  
勿論、潜水艦ノ存在スル限り、制海権ノ意義

八旧時ノ如ク絶対的ナラザル事ニ注意スルヲ要ス。

(四) 日本ハ、其潜水艦兵力ヲ以テ、進ンデ布哇及遠ク米本國ニ多数ノ潜水艦ヲ配シ、彼ノ海上交通破壊戦ヲ行フト共ニ、彼ノ水上兵力ニ対シ、機会アル毎ニ突撃ヲ加フベシ。旧来ノ如ク、敵艦隊出撃、西航ノ時機ヲ捕へ、之ヲ通報スルト共ニ、之ニ接触セントスルガ如キ任務ノ如キハ、其実現ノ機会少キヲ以テ突撃一点張ノ任務を課スルヲ要ス。(五)

以上ノ情況ニ於テ、日米戦争ハ持久戦ノ性質ヲ帯ビ、吾ニモ新シキ手ナク、彼ニモ新シキ手ナク、平凡ナル経過ヲ辿ルベシ。(六)

### 結論

帝國ハ、以上述ブル所ノ情況ヲ考へ、帝國ヲ先ズ不敗ノ地位ニ置キ、持久戦ニ耐へ得ル丈ノ準備ヲ為シ置ク事、最緊要ニシテ、速戦速決ノ如キハ、云フベクシテ行ハレズ。従ツテ速戦速決ノ目途トスル艦隊決戦兵力ノ整備ノミヲ考フルトキハ、其ノ整備スラ思フニ任セ

ズ、之二焦慮シ居ル間ニ、帝國ヲ不敗ノ地位ニ置クノ方策ニ大ナル欠陥ヲ生ズベシ。其ノ情況ニテ開戦トナルニ於テハ、決戦兵力ノ如キハ之ヲ用フルノ機会ナキ中ニ、帝國ノ最弱点ヲ突カレテ屈スルコトトナルノ危険アル事ヲ認識スルヲ要ス。

### 三、帝國ノ海軍軍備整備ノ要点

前章ニ於テ日米戦争ノ形態ヲ明ニセシコトニヨリ、帝國海軍軍備ハ何ヲ目途トスベキヤハ自ラ明白ナリ。勿論、日米戦争ガ必然的ニ前述通ノ形態ノ經過ノミヲ辿ルト断言スルヲ得ズ、時ニ吾人ノ予想セザル形態ニ發展スルコトナシトセザルモ、夫ハ概ネ彼ガ兵術常識ニテ考エラレザル型破リノ戦法ニ出デタル場合ナルベク、其ノ場合ニ於テハ、弱点ニ乗ジ彼ノ兵力減殺ノ機会ヲ得ベク、敢テ意トスルニ足ラザルノミカ、吾ニ幸スルモノト云フベシ。故ニ吾人ハ、前述ノ戦争形態ニ適応セル戦備

ヲ整フルコトニ依リ、帝國海防安全ノ万事ヲ  
 解決シ得ルモノナリ。  
 以下順ヲ追ヒ、帝國海軍々備整備ノ要件ヲ述  
 ブ。  
 (一) 帝國ハ、帝國ノ生存上必要ナル、又戰  
 争遂行上必要ナル、國トシテノ海上補給線ノ  
 確保ニ必要ナル兵力ヲ整備スルヲ要ス。帝國  
 ガ其國家生存上及戦争遂行上、國家トシテ日  
 滿支連絡線、並ニ蘭印ヲ含ム西大西洋海面交  
 通線ノ保持ヲ必要トスルヲ以テ、戰時此ノ交  
 通線ノ對敵保護ヲ絶対必要トス。此ノ場合、  
 會敵ヲ予期スル敵兵力ハ、航空機、潜水艦及  
 機動水上部隊ナルベク、吾ハ之ニ対応スル兵  
 力ヲ保持・運用スルヲ要ス。  
 (二) 帝國海軍ハ、西太平洋各島嶼其ノ他二  
 前進・分散シ在ル作戰基地（飛行基地ヲ含ム、  
 及其基地ヲ足場トシテ活動スル作戰部隊ニ對  
 スル、軍自体ノ戰略線（補給線）ノ確保ヲ要  
 シ、之ニ必要ナル兵力ヲ整備スルヲ要ス。此  
 ノ場合ノ予想敵兵力ハ（一）ト同ジク、所要

整備兵種、亦之二同ジ。

此処ニ吾人ノ最注意スベキハ、日露戦争ト云ヒ、今次事変ト云ヒ、吾海軍ハ潜水艦ヲ有スル敵ト戦ヒタル事ナク、又幸、敵航空機ニヨリ此等（一）及（二）ノ補給線ヲ脅威セラレタル経験ナキヲ以テ、兎モスレバ之ノ問題ヲ閑却シ勝ナル一事ナリ。将来対米戦争ノ場合ニハ、米ハ帝国ノ弱点タル此ノ方面ニハ之ヲ作戦ニ重点ヲ置クノ公算極メテ大ナルヲ以テ此種作戦ニ対スル方策ハ、今後大イニ重視スルノ要アリ。

（三）帝国海軍ハ、敵艦隊ヲシテ西太平洋ニ侵入セシメザルガ為ノ防禦（戦略防禦ニシテ戦術的防禦ニ非ズ）兵力ヲ整備スルノ要アリ。従来ハ、艦隊決戦ハ万事ヲ解決スルモノトナシ、故ニ吾モ、先ヅ決戦ノ機ヲ視ヒタルヲ以テ、劣等海軍国ナラザル限り、本項ノ如キ思想ハ容ル、所トナラザリシモ、潜水艦及航空機ノ発達セル今日ハ、吾ニ若シ優勢ナル潜水艦ト航空兵力ヲ有スルニ於テハ、主力艦ヲ含

ム艦隊決戦ノ如キハ生起スルコトナカルベシ。何トナレバ、敵主力ノ如キハ、吾ノ航空機活動圈内ニ侵入スルハ自滅ヲ意味スルヲ以テナリ。

(四) 以上(一)、(二)及(三)ノ要求ハ優勢ナル航空兵ニヨル制空権ノ確保ト、多数潜水艦ノ活動及「コンボイ」護衛」用軽水上艦艇、及相当有力ナル機動水上兵力」ノ整備ニヨリ、之ヲ充スコトヲ得ベシ。

(五) 帝国海軍ハ、米ノ水上艦艇攻撃及補給線破壊ノ目的ヲ以テ、遠ク米本国沿海迄行動セシムベキ潜水艦ヲ整備スルヲ要ス。

(六) 帝国海軍ハ、敵地攻略作戦用兵力ヲ整備スルヲ要ス。前章ニ於テ論ジタル如ク、敵航空兵力ノ活動ヲ封ジ、潜水艦及水上艦艇ノ活動力ヲ減殺シ、一方、吾ガ航空機活動圏ヲ前進・拡張セムガ為、帝国ハ西大洋ニ在ル米国ノ領土ヲ攻略スル事ハ対米戦ノ主要作戦ナリ。故ニ海軍トシテモ此ノ作戦ノ重要性ニ鑑ミ本作戦実施ニ最適応セル兵力(艦型及数

航空機ノ機種及数）ヲ研究・整備スル事肝要ナリ。

従来ノ考ヘ方ハ、艦隊決戦兵力ヲ専ラ整備シ置キ、攻略作戦ニハ其一部ヲ一時転用スル力、又ハ第一線（決戦ノ）ノ使用ニ耐ヘズ老域ニ入りタル兵種兵力ヲ集メ、攻略戦艦隊ヲ編成スルノ考ヘ方ナリシモ、艦隊決戦ハ予期セザル今日ハ、右ノ旧来ノ考ヘ方ヲ棄テ、攻略作戦用兵力ヲ軍備計画当時ヨリ計画建造スルノ要アリ。何トナレバ本攻略作戦ハ、通商線保護ノ見地ヨリスルモ、帝国本土防衛上ノ要求ヨリスルモ、艦隊撃滅ヲ目的トスル旧来ノ艦隊決戦二代ルベキ重要サヲ持ツニ至レル主作戦トモ見ルヲ得ベキヲ以テナリ。

実ニ敵航空基地ノ奪取、及吾ニ之ガ利用ハ旧思想ノ敵戦艦ノ撃沈ニモ匹敵スルモノナル事ヲ考フルノ要アリ。

（七）以上ヲ要約スルニ、帝国海軍ハ優勢ナル航空兵力及潜水艦及機動水上兵力ヲ保有スルヲ要スル次第ニシテ、就中、航空兵力ノ優



大ト、潜水艦勢力ノ優大ハ絶対必要条件ナル  
ノミナラズ、此種兵力ヲ充分ニ保有スルニ於  
テハ、他兵種ハ大イニ其勢力ヲ節減スル事ヲ  
得ベシ。

(八) 制海権ニ就テ

帝国ハ西太平洋ノ制海権ヲ確保スルヲ要ス  
ルコト、從來ト異ナラズ。茲ニ制海権ト云フ  
意味ハ立体的ノ意味ニシテ、潜水艦及航空機  
ノ発達セル今日、制海ノ意味ハ、潜水艦存在  
セザル旧時ノ如ク絶対的ナラズ、又一方、制  
空ナクシテハ制海ナキコト、及制空権ヲ得バ  
相当程度ノ制海ヲ得ラルコトニ注意ノ要アリ。  
此処ニ相当程度ト謂フ所以ハ、制空権アル処  
敵水上艦艇ノ活動ハ敵ニ不利ナルヲ以テ、大  
部分之ヲ封ズルヲ得ベク、潜水艦ノ活動ハ相  
当其ノ余地ヲ存スルノ意ナリ。

(九) 制空権ニ就テ

帝国ハ制海ノ前提トシテ、西太平洋ノ制空  
権ヲ確保スルヲ要ス。此ノ考へ方ハ從來余リ  
主張セラレザリシ所ニシテ、制空権ナル思想

八旧来ノ艦隊決戦万能ノ時代ニ於テハ、局部的ニ決戦場タル海面ニ限定シ、制空ヲ制海ノ前提トシテ考ヘズ、単ニ決戦場ニ於ケル吾ガ航空機ノ自由活動ニヨル艦隊決戦ヘノ寄与、即チ有利ナル状況ニ於ケル艦隊決戦ノ前提トシテ考ヘラレタルノミ。即チ旧時、航空母艦搭載機ヲ海軍航空兵力ノ主体ト考ヘタル時代ニ於テハ、海上航空兵力ト水上艦艇ハ、双方相関的ニ依存ノ形ニシテ、空母ナクシテ海上航空兵力ハ考ヘラレズ、従ツテ或ル程度ノ水上艦艇ノ威力ニヨル局部的訓海アリテ始メテ艦隊上空ノ制空成立シタル次第ナリシガ、近時、基地用飛行機ノ発達ニ依リ、海上ニ活動スル航空機ノ主体ハ陸上飛行機及飛行艇トナリシ今日ハ、制空ハ制海ノ前提条件ナクシテ即チ水上艦艇ナクトモ、単独ニ航空兵力ノミニヨリ之ヲ求め得ベク、寧口此種、水上艦艇ニ独立シ、關係ナク活動スル航空兵力ニ依ル制海ハ空か？」権ノ確保ガ、却ツテ制海権ノ前提条件トシテ考フルノ要アルニ至レリ。

## 四、結論

以上各章ニ於テ論述セルガ如ク、帝国海軍々備ニハ重大ナル欠陥アルニ非ズヤト考フ。實ハ潜水艦及航空機ノ發達ニ伴ヒ、帝国海軍々備計画ハ漸次改定セラレ、今日ニ於テハ、其ノ改定セラレタル軍備、相当整備シ在リテ然ルベキ時機ナリ。然ルニ軍縮条約ノ残存中ハ、何トナク条約条文中ノ各艦種毎ノ比率ノ觀念ニ支配セラレ、特徴軍備ニ対スル研究準備ニ大イニ欠クル処アリ、又特徴軍備ヲ整備セントスルモ、条約ノ支配アリテ実行不可能ナリシ事実モアリシ事ハ否定出来ズ。故ニ吾人ハ、敢テ、今日ノ帝国海軍々備ノ現狀ニ欠陥ヲ生ジタルハ穴勝軍令部当局ノ怠慢ト云フニ非ズ、条約ガ支配セル一種時代ノ思想ノ流レノ自然ノ結果ナリト考フル次第ナルモ、中型陸攻及優秀飛行艇、其ノ他航空機ノ最近ノ發達ヲ現実ニ認め乍ラ、旧態依然タル軍備計画ヲノミ考へ、現時ノ軍備ノ欠陥ヲ看過シ、今日現存スル海軍々備ノ欠陥ヲ更ニ將

来ニ助長セムトスルガ如キ軍備計画ガ、今日  
実行ニ移ラントシツツアルノ危険ヲ警告セム  
トスルモノナリ。

軍備計画ハ、先以テ帝国ヲ不敗ノ地ニ置ク  
事ヲ考へ、次デ如何ナル戦ヲナシテ敵ニ勝ツ  
ヤヲ考へ、其戦ノ方式ニ必要ナル兵力ヲ整備  
スルヲ要スルモノナルガ、余ヲシテ云ハシム  
レバ、今日ノ軍令部当局ノ軍備計画ハ、帝国  
不敗ノ地ニ置クニ必要ナル軍備ヲ閑却シ、一  
方、将来戦ニ於テ生起ノ公算ナキ決戦兵力ノ  
整備ノミニ頭ヲ突込ミ、夫ニテ空漠ト勝テ相  
ニ考へ居ルノミナルガ如シ。シカモ其ノ決戦  
兵力ノ整備ハ、最近ノ米ノ大拡張ニ引離サレ  
ントシ、其ノ比率（各艦種）ノ低下ニ周章狼  
敗（狼）ノ体ニテ、之ガ為厖大ナル国費ト資  
材ヲ消費セントス。其結果、焦眉ノ急トスル  
絶対必要兵力ノ整備ガ妨ゲラル、情況ナリ。  
殊ニ最近ノ緊迫セル時局ハ、何ヲ堵テ置クモ  
帝国ヲ不敗ノ地ニ置クニ必要ナル軍備・戦備  
ヲ必要トスル一方、国内物資ニ限度アル此ノ

情況ニ於テ、将来軍備ノ為ノ決戦兵力整備人  
 其ノ下準備トシテノ各種水陸整備ノ実施が、  
 焦眉・絶対必要兵力ノ整備ヲ妨グル結果トナ  
 ル事ハ、此ノ際大イニ考慮ノ要アリト認ム。  
 以上総論ニ於テ、軍備ノ再検討ノ必要ヲ論  
 ジタル吾人ハ、各論ニ於テ、具体的ニ帝国海  
 軍所要軍備ノ内容ヲ論ズベキ順序ナルモ、斯  
 クテハ時日ヲ遷延シ、又常務多端ナル吾人ト  
 シテ之ヲ詳論スルノ余力ナキ一方、之等ヲ研  
 究・立案スルガ為ニハ、之ヲ唯一ノ常務トシ  
 日常ノ雑務ノ責任ヲ免レアル機関、存在スル  
 ヲ以テ、単ニ各論ニ於テ論ズルノ要アリト認  
 ムル事項ノミヲ列記シ置クニ止メントス。

## 各論

### 一、要地攻略戦論

### 二、航空戦論、制空権論

### 三、潜水艦戦論

### 四、通商保護戦論

### 五、航空機種論

